

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670102647		
法人名	特定非営利活動法人しおんの家		
事業所名	グループホームしおんの家・望		
所在地	富山市水橋辻ヶ堂777		
自己評価作成日	平成30年9月25日	評価結果市町村受理日	平成30年11月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成30年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>豊かな自然環境の中で、入居者と生活のパートナーである職員の暮らしは自然（普通）でありたいと願っている。また、たとえ認知症があっても馴染みの暮らしの中で、その人らしい生活を送っていただけるよう努めている。全体に現入居者の個性に合わせた居心地の良い賑やかな雰囲気と生活感あふれる空間づくりに努め、入居者さんは思い思いに時間を過ごしておられる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者には各々個別の生活があることを念頭に、利用者が穏やかに生活できるよう取り組んでいる。地域との共生を大切にしながら積極的に地域と交流し、利用者の地域生活が継続できるよう支援している。事業所の身体拘束等適正化のための指針を作成し、身体拘束廃止委員会や勉強会等で確認したり、職員のキャリアアップのための学習を支援し、研修の機会を増やすなど、職員のケアサービスの向上に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームしおんの家・望

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員はミーティングや研修会の時に理念を確認し、実際のサービスに反映できるよう心掛けている。理念を確認することで新たな発見があり、より良いケアにつながると確信している。また、研修や勉強会の機会を捉え理念を確認している。	職員全員が法人の理念や事業所の目標「皆で支えあう」を共有できるように、マンダラートを使ったり、ミーティング等で確認している。日常業務においても、ケアサービスが疎かにならないように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の一員として色々な地域活動に参加し交流を深めている。地域のネットワークを通して広く水橋地域の住民としての意識をもって活動している。	地域住民との交流を図ることで、利用者の生活が今まで通り継続されるよう努めている。地域の清掃活動や催事には積極的に参加しているほか、認知症について各学校で出前講座を開いたり、寸劇を披露したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まちづくりの地域活動に積極的に参加している。また、水橋福祉ネット劇団の寸劇を通して、認知症の理解の普及啓発に努めている。地域サロン活動としてカフェや趣味教室運営で地域の人に足を運んでもらえるよう努めている。カフェだよりの配布など。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月での運営推進会議では、地域包括支援センター職員や町内会等の地域の人、民生委員、ご家族等の参加を得て現況報告や暮らしの様子等をお知らせし意見交換をしている。参加者からは忌憚のない意見が出されている。年2回は同法人の4つの家合同でも行っている。	運営推進会議は定期的に行われており、地元の公民館長や民生委員、包括支援センター職員などの参加を得て、活発に意見交換されている。委員からはハザードマップの確認や避難方法などの質問が出された。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回介護相談員の訪問があり、入居者スタッフとの交流がある。また県グループホーム協議会のネットワークを通し現場の声を届ける用意がある。不明な点など市役所に聞いたりすることもある。	地域包括支援センターや介護相談員を通じて、事業所の様子を伝えたり、認知症に対するケアの進め方を相談するなど、市の担当者とは協力関係を築いて行くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を作成し身体拘束廃止委員会を開いている。また、皆でアイデアを出し合い工夫している。日中の玄関の施錠をしないことは当初からの方針であり職員は理解している。	身体拘束をしないケアについては、職員全員の共通認識として、適正化のための指針を作成し、廃止委員会や勉強会を開いて確認している。玄関に施錠をしないことやベッドにセンサーマットを使用することなど、家族とよく相談をしながら、利用者に寄り添うケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加や法人内のミニ勉強会においても話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加している。運営推進会議や家族会の中でも話し合いがあり、必要なご家族を支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり、丁寧に対応している。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制について詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会などで利用者の心身に関することや職員に関する意見や要望など話してもらえ関係づくりに努めている。出された意見や要望はミーティング時などに話し合い、必要なものは反映させている。経過記録で日頃の写真や様子など伝えている。	家族の来訪時や運営推進会議の後に開催される家族会などで、家族の意見や要望は聞いている。家族へは毎月利用者の様子を伝えるなど信頼関係は良好に維持されている。出された案件は、ミーティング等で話し合い、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会、個別面談を行っている。また、日頃からコミュニケーションを図るように気を付けている。職員からは様々な意見が提案として出され運営にいかしている。	職員との個人面接は年2回行われており、管理者とのコミュニケーションは良好に保たれている。職員は目標シートに業務上の行動目標を掲げて、各項目に対して自己チェックを行い、管理者と確認しながら業務を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて、シフトを調整している。また、管理者や法人の他の事業所からの応援もある。キャリアパス制度の導入で自主研修や地域活動への評価をする。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成は最重要課題であり、キャリアパス用件を作成し個別面談を半期毎に行っている。SDSの活用を勧めキャリアアップのための学習を支援している。他、研修の機会をできるだけ多く取るようにしている。研修報告を勉強会で行ったり、ミーティングで復命したり共に高め合う仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会等の交流会等でネットワークづくりに努め、井の中の蛙にならぬよう、質の向上に取り組んでいる。水橋福祉ネットでの勉強会やイベントを行い交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談をしたり、ご家族から生活歴などの情報をもらい、職員に周知を図っている。それをもとに職員個々が、それぞれに早期に信頼関係を築くことができるように努めている。何気ない呟きや、言葉も拾い声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聴き、これまでの介護の苦労などを受け止めたり、不安なことに対し相談に乗ったり、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくり話を聴き、他の有効なサービスについて情報提供やアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は双方向性のケアを認識している。できることを把握し生活の中で自然に役割ができ、これまでの生活の継続ができるように支援している。本人の希望で近くのお店に買物に行ったりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡をこまめにとることで、どちらかに任せきりにならないよう支え合う関係を大切にしている。行事の参加をお願いしたり、本人さんの思いを家族さんに伝えたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも親戚の方や友人の方が気軽に出入りしやすい雰囲気づくりに努めている。以前よく行っていたスーパーマーケットや店に買物に出かけている。地域行事にも参加することで知己に出会えている。	家族の協力を得て、馴染みの床屋や美容院へ出かけたり、いつもの店へ買い物に出かけたりしている。また、散歩に出かけた時、近隣の人たちと言葉を交わすなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるところ、できないところを利用者同士が支えあい、職員が見守るという場面を大切にしている。問題点があればカンファレンスなどで対策を話し合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にしている。退居され他施設に行かれた方の面会やお元気な時の写真などを送ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者と一対一での関わりを大切にしている。安心感を持ってもらう関係性を大切に、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は生活歴や習慣などご家族から情報をもらっている。カンファレンスで話し合い職員で共有している。	「何をするのが一番たのしい？」と聞くと「みんなで過ごすことが楽しい」と答えが返ってくる。利用者に寄り添いながら、その時々のお気持ちを聞きとり、思いや意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族からバックグラウンドについて情報をもらうようにしている。会話の中から出る言葉を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の全体像を見失わないように努めている。本人の確認、観察に努めている。発言や表情から現状を職員が共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを尊重し、本人やご家族の意見や気づきを話し合い、プランに反映させていることについて詳しく説明し同意を得るようにしている。本人の言葉を拾いあげアセスメントし個別カンファレンスで検討し計画を作成している。状態変化時は現状に合わせ見直しをしている。	カンファレンスでは、職員からの小さな気づきを寄せ合いながら検討を行い、家族の意見を反映し、本人の日常がより良く送れるよう介護計画の作成に取り組んでいる。見直しがあれば随時変更を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化に応じて、書き込みを行い、話し合って見直しをしている。入居者さんが言われた事をメモして活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて、通院や外出、買物など必要な支援は柔軟に対応している。趣味教室に参加したり、他事業所へ遊びに行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域（水橋）の美容院やスーパー、ホームセンター、コンビニ、魚屋さん等を利用者している。地域のサロンへ行き習字教室に参加している人もいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望や状態に合わせ、かかりつけ医への受診や往診を受けている。通院もご家族が行けない時は法人の福祉有償運送制度を使い付き添いするなど家族の負担を軽減している。医師からの意見や情報を聴きながら信頼関係を築く努力をし、ご家族とも連絡を取りながら進めている。	本人、家族が希望するかかりつけ医の往診、受診を勧め、家族の協力を得ながら取り組んでいる。何時でも適切な医療が受けられるよう、医療機関との連携を図りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する法人内の他事業所に看護師の配置があり、少しの状態の変化にも相談、対応ができる。必要時の座薬の挿入や痰の吸入等をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため、なるべく早く退院できるようにご家族や病院、かかりつけ医と連携を持つようにしている。入院中は病院に情報提供を行い、お見舞いに行くなどして安心してもらい早期の退院につながるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに関する指針を示し、早い段階から事業所としての方針やできることを説明しご家族に理解してもらえよう努めている。体調の変化はこまめにご家族に伝え、主治医から終末期の話があったときは一緒に聞き、今後のことを話し合い、記録し職員に周知を図っている。	重度化及び看取りに関する指針を当初から説明し、終末期には、契約書にて事業所の取り組みや、出来る対応を詳細に家族に説明し理解を図っている。また、今までの経験から、反省点や今後起こりうる事態なども話し合い、重度化や看取りに対する職員の意識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について周知を図っている。定期的に勉強会や研修に参加している。先に起こりうるリスクにもそなえ対応方法を決めたりもしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いで避難訓練を行っている。地域の協力も得られている。水や食料品などの災害備蓄品を揃え表示をわかりやすく持ち出しやすいように工夫した。今年7月に近くの河川の増水で高齢者等避難開始が発令し実際に隣接施設2階までの垂直避難をした。反省点や改善点を検証し今後生かす対策をミーティングで行った。	今年の7月5日の夕方、事業所地域が水害のために「避難準備・高齢者等避難開始」が発令され、駆け付けた職員で、隣接施設2階までエレベーターで利用者全員の避難を行い、翌朝まで過ごした。	地震や台風など自然災害に於いては、ライフラインが止まることも想定され、避難方法を全職員に徹底すると共に、備蓄品の見直しも図ることが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の意識向上を図っている。また、馴れ合いの言葉にならぬようお互い気づいたことは職員間で注意し合うようにしている。視線を合わせ語りかけるように努力している。	利用者には、馴れ合いの言葉や強い口調にならないよう職員間で注意している。利用者の動きには、制止せず見守りを図りプライドを損ねない対応を心がけている。また食後、お気に入りの場所で過ごされる利用者もおられ、プライバシーを大切に見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大事にしたケアを心がけている。外出希望や食事の献立、おやつや飲み物の選択など。洋服も自由に選んで着てもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人主体の暮らしになるように支援する努力をしている。散歩、入浴、買物など。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の思いに合わせて支援している。外出時の洋服を一緒に選んでいる。何人かの方は、自分で毎日選んで着ておられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物時、好きな食材を購入してもらったり、盛り付け、食後の片づけなどそれぞれの力を出し合っている。畑からの収穫や地域の方からの差し入れなど、季節の食材を多く使った食事を味わっている。	季節の食材を使い、温かい食事が提供されている。職員と一緒にテーブルを囲み、会話をしながら美味しく味わっている。利用者個々に、食べやすい食事形態に努めているが、「もっと細かくして」との要望にも即対応し、本人を納得させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録している。食欲のない方へ栄養が不足しないように好きなものを作ったり声かけを工夫したりしている。飲み物もいろいろ用意して好きなものを飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員全員が理解するように努めている。毎食後の口腔ケアを支援してチェックしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握しながら個々の状態に応じてパットを選び排泄の介助を行っている。便のサインを見つけトイレでの排泄、重度の人のトイレ介助を心がけている。	トイレでの排泄を勧め、自立に向けて取り組んでいる。介助の際には、立ち上がる、掴まるなど自力を引き出しながら行う時や、抱きかかえることで安心されることもあり、日々利用者の状態を見て勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳やボカリスエットを飲んでもらい、朝食にバナナやヨーグルトを毎日食べてもらったり、散歩や体操などで体を動かし自然排便できるように努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望や体調に応じ入浴を勧めている。身体状況によっては安全性を図るため職員2人で介助を行っている。歌を歌ったり、話しながら楽しく安心して入ってもらえるように支援している。浴槽に入りたくない方には、シャワー浴を勧めている。	入浴は体調や希望を聞きながら取り組んでいる。歌を唄ったり会話を楽しんだりとゆっくり勧めている。状態によってはシャワー浴の日もあるが、足浴などでリラックスを図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に応じている。自立している方は自分の意見で、その他の方は様子を見て声をかけたりしている。部屋に温湿度計を置き部屋の温度調節や寝具の調整をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報のファイルを作成し、職員は、個々の服薬について薬のセットを全員が行うことで把握に努めている。変更がある時も申し送りをして周知徹底を図っている。容体に合わせ医師より向精神薬や下剤等の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事予定表を提示し楽しみにしてもらう工夫をしている。ボードに季節ごとの飾りつけなどを入居者さんと作って貼っている。趣味教室に参加したり、地域での習字教室へ行ったりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然が豊かであり、できるだけ戸外に出て活動している。日向ぼっこをしたり、散歩やドライブ、買物、外食なども入居者さんの希望で行ったりしている。春と秋にはホテルなどを予約し家族さんと共に食事会を毎年行っている。	近所の散歩や施設周りに何度も出かける利用者もいて、自由な行動を見守っている。季節の花や枯葉を集めたり、事業所前のベンチで日向ぼっこや猫と戯れたりが入居者の日常である。時にはドライブにも出かけている。次の楽しみはレストランでの家族と一緒に食事会が予定されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所だが、買物や喫茶などでは、本人に支払いしてもらうよう代金（財布）を渡すなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に対応している。家族に電話したいと言われたら、していただいている。携帯電話を持っている方には、使用方法を説明し、かけていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を入居者さんに生けてもられている。玄関横にベランダがあり出入りしやすいように人工芝を敷きベンチを置き日向ぼっこや近隣施設の訪問者が立ち寄って交流できる場を設けた。共有フロアは過ごしやすいうように、こまめに整理整頓を行っていききたい。	事業所前の花壇には、色とりどりの季節の花が植えてあり、ベンチに座っていると訪問者が声をかけてくれる。玄関に入ると、花梨や大きな柿が出迎えてくれる。共有フロアは、整理整頓され、円形テーブルを囲みながら利用者と職員の会話や歌声がいつも聞こえている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が見える場所にテレビやソファ、ミニテーブルを置いたり廊下にソファを置いたりしている。和室に腰かけてもらったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に椅子やソファを置いたり居場所づくりに気を使っている。ベッドから転落予防のため低床ベッドを使用したり、転倒防止のために掴まりやすいよう家具などの配置を工夫している居室もある。趣味教室での手作り作品やご家族の写真を飾ったり、居心地の良い部屋作りを支援している。	馴染みの家具を配置し、壁には、利用者の趣味を生かした書やリースなどの作品がバランスよく飾られ、個性ある部屋となっている。毎朝、ベッドの布団をたたむ利用者もおられ、それぞれの生活習慣を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを活かして、掃除をしたり、食後の後片付け、洗濯のできる場所をしてもらうように努めている。新聞たたみや清拭巻き、ゴミ出し等をしてもらっている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームしおんの家・望
 作成日 平成 30年 11月 10日

【目標達成計画】

優先 順	項 目 番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	地震や台風など自然災害に於いては、ライフラインが止まることも想定され、避難方法を全職員に徹底すると共に、備蓄品の見直しも図ることが望まれる。	これまで起きている自然災害から学び、訓練を重ねたり日頃から話し合うことから備えを強化したい。また、備蓄品においても同様に見直していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の防火訓練の後で、水害等の避難訓練を行う。 ・ミーティングにおいても、「水害時の避難確保計画」等のマニュアルから確認し合う。 ・備蓄品においては、カセットコンロ等ライフラインが止まった時に使える物を備え充実、管理する。 	3ヵ月
2					
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。